

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：関西大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○計画を超えた取組である。

計画以上の取組が工夫して実施されており、取組内容が体系化され、確実に運営されていることが認められる。就職数、就職率についても、ともにほぼ当初計画を達成している。特に代表大学での就職率が大幅にアップしている。今後、代表大学のイニシアチブに基づいて進捗している成果を、連携大学間でどのように共有するかが課題である。

2. プログラムの内容の進捗状況

○計画を超えた取組である。

学生向け施策、企業向け施策ともに成果数を伴っており、計画どおり進捗している。ビジネス日本語、キャリア教育、インターンシップとも当初計画された内容が構築されており、ビジネス日本語においては、BJTの受験もJ1+、J1の受験者割合が拡大している。また、インターンシップ、参加企業の拡大方策、ポイント制等において、新しいアイデアが含まれている点が優れている。

また、プログラム参加者数はポイント制の参加者数としてカウントされ、コンソーシアム4大学全体として把握されている。参加者数も当初計画より大幅に拡大している。

3. 実施体制の構築、活動状況

○計画を超えた取組である。

インターンシップ受入れ企業の開拓を積極的に行っている。企業支援体制の構築はユニークな取組であり、地域経済団体を巻き込み実施されている。また、低学年時からの育成を企業、大学ともに共通課題として共有し進めるなど、連携した関係が認められる。

一方で、コンソーシアムの4大学以外の地域大学のプログラム参加や自治体の関与については必ずしも明確ではない。また、企業側から費用を出してもらって事業を継続するという点だが、企業側からはその見通しは厳しいとの指摘もあることから、実現に向けてコンソーシアムが連携して取り組むことが期待される。

4. 他大学が参考にできる事項等

○プログラムの統合的な構想力と積極的な推進体制、地域産業団体や自治体を巻き込み自立化を見据える展開が他大学の参考になると思われる。

○ポイント制と運営（表彰）プログラムが、留学生採用のきっかけになりうるように設計されている。また、eラーニング教育コンテンツの提供は留学生の日本語への関心のきっかけづくりに貢献できている。